

おり、子ども会組織数が少年団体総数の約77.8%を占めている。

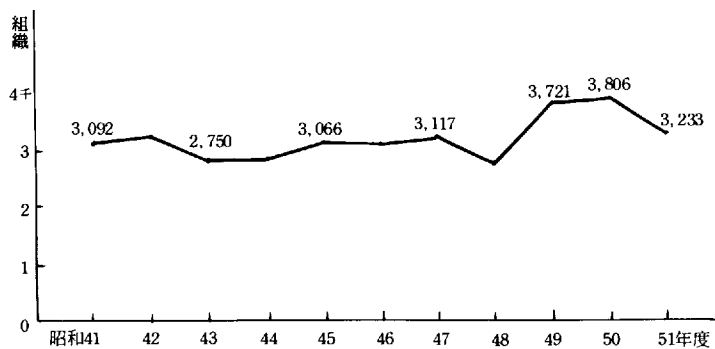
少年団体数の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、下降後上昇しその後、緩慢な上昇傾向にある（図3-1-10）。

また、この少年団体の育成組織数の状況についてみると、昭和51年度は、3,233組織である。

育成組織の主なものは、町内部落会 1,918組織、次いで学校 775組織、PTA 774組織等となっている。

少年団体育成組織数の推移を昭和41年度から昭和51

図3-1-11 少年団体育成組織数の推移



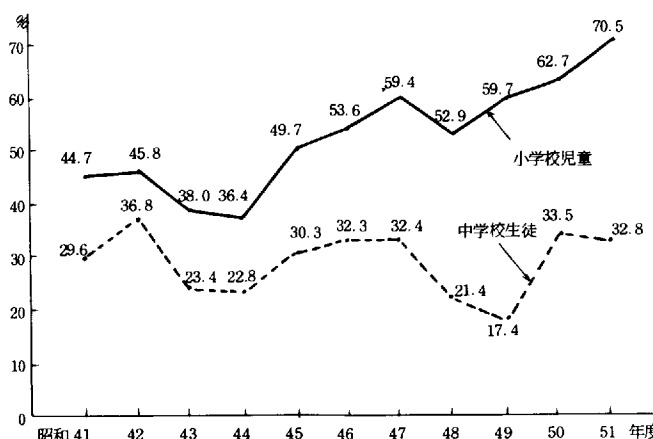
注：「社会教育統計要覧」(昭41～昭51)による。

年度までにおいてみると、育成組織数は年度ごとに若干の増減はあるがほぼ横ばいの状況にあるといえる（3-1-11）。

一方、少年団体加入者数について、昭和51年度は 254,711人である。

少年団体加入者の内訳をみると、最も多いのは、子ども会の 160,785人（男子82,221人、女子78,564人）次いで、青少年赤十字の68,446人（男子34,754人、女子33,692人）、等となっており、子ども会会員数が少年団体加入者総数の約63%を占めている。なお、少年団体加入者数の推移を昭和41年度から昭和51年度までに

図3-1-12 子ども会参加率の推移



注：1. 「社会教育統計要覧」(昭41～昭51)による。

2. 参加率=(構成別参加数)÷(児童、生徒総数)×100

においてみると、昭和48年度までは下降または横ばいの状況にあるが、昭和49年度以降は上昇傾向にある（図3-1-10）。

なお、小・中学生の子ども会参加率をみると、昭和51年度における小学生の参加率は70.5%、中学生の参加率は32.8%である。また、高等学校生徒は全体で0.89%（2,272人）となっている。

小・中学生の参加率の推移について、昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、小学生の参加率は昭和44年度の36.4%を底に著実に上昇傾向にあり、昭和51年度は昭和41年度に比べ25.8ポイント参加率が高まっている。中学生の参加率については、30%台を上限に伸び悩みの状況にあるといえる（図3-1-12）。

このことから、少年団体数及び少年団体加入者数ともに、緩慢ながら上昇傾向にあるが、この